

# 小学校高学年児童の学級適応と自尊感情の関連性

学校教育専攻  
教育臨床コース  
武井 真

指導教員 小坂 浩嗣

## 1 背景と目的

少子化や都市化等の社会の変化に伴い、学校教育現場においては、いじめや不登校、非行、学級崩壊などの諸問題が生じている。いじめ等の問題に至らないまでも、学級集団にうまく適応できず、学級集団への所属感が低い子どももいる。学校生活の基盤となるのは、学級集団である。集団への適応に課題をもつ子どもの多くは自尊感情が低いと考えた。学級適応と自尊感情には関係性があり、学級適応を高めることが自尊感情の向上につながるのではないかと考えた。

本研究では、①自尊感情と学級適応との関連性を検証する、②学級適応を意図した構成的グループエンカウンター（以下SGE）を実施し、学級適応と自尊感情への影響を検討する、③自尊感情の低い子ども及び教師の気になる子どもの活動の様子と教師や級友との関わりや変容に焦点をあて、学級適応と自尊感情への効果を検討する、ことを目的とした。

## 2 研究の対象と方法

### (1) 対象

- 1) 実験群：Z県Y郡X町の公立のW小学校  
5年生T組24名（男子14名・女子10名）
- 2) 統制群：Z県Y郡X町の公立のW小学校  
5年生S組26名（男子16名・女子10名）
- 3) 着目児童：実験群から4名を選出した。自

尊感情の面で教師の気になる児童2名（A男、B女）と事前調査で自尊感情が低い児童2名（C男、D女）とした。

### (2) 方法

- 1) 実施期間：2007年5月8日～同年7月11日
- 2) 効果測定：SGE実施前後に質問紙（「学級満足度尺度」（河村・田上, 1997）、「自尊感情尺度」（池谷, 2000））を用いた。
- 3) 着目児童への調査：休み時間と授業中の観察記録とSGE実施中のVTR記録を撮るとともに、SGEの振り返り用紙の記入を毎回求めた。SGE実施前後には、担任教師へのインタビューを行った。
- 4) 実施SGEプログラム

実施時期	回	所用時間	エクササイズ名
第1週	1	15分間	あいこジャンケン
第2週	2	45分間	鏡よかがみ
			団結くずし
第3週	3	15分間	アウチでよろしく！
第4週	4	45分間	ジャンケン手の甲叩き
			あわせアドジャン
第5週	5	15分間	肩もみエンカウンター
第6週	7	45分間	誕生日チェーン
			サイコロトーキング
第7週	8	15分間	ねえ、どっちがいい
第8週	10	45分間	私はわたしよ
			パチパチカード

## 3 結果

- (1) 学級満足度と自尊感情の関係（Pearson

の相関係数)

「学級満足度」と「自尊感情」との間には、有意な正の相関が認められた。「学級満足度」と自尊感情の下位尺度では、「他者信頼」、「自己価値」、「相互信頼」、「幸福感」との間に有意な正の相関が認められた。この内、男女ともに共通して有意な正の相関が認められたのは、「学級満足度」と「自尊感情」、「学級満足度」と自尊感情の下位尺度の「他者信頼」、「相互信頼」であった。また、男子では、「学級満足度」と自尊感情の下位尺の「自己価値」、「自尊感情」と学級満足度の下位尺度の「承認」との間に有意な正の相関が認められた。女子では、「学級満足度」と自尊感情の下位尺度の「幸福感」、「自尊感情」と学級満足度の下位尺度の「非侵害」との間に有意な正の相関が認められた。

(2) 学級適応と自尊感情の特徴

1) 学級満足度と自尊感情の男女比較 (t 検定)

男女間に学級満足度と自尊感情及びそれらの下位尺度に、有意差はみられなかった。

2) 学級満足度状態による自尊感情得点の比較 (t 検定)

学級満足度高得点群は、「自尊感情」と下位尺度の「他者信頼」、「相互信頼」、「幸福感」が有意に高いことが認められた。

(3) 学級満足度と自尊感情の事前・事後比較 (t 検定)

実験群では、「学級満足度」と下位尺度の「承認」、「非侵害」、「自尊感情」と下位尺度の「他者信頼」が有意に高くなった。統制群では、「学級満足度」と下位尺度の「承認」が有意に高くなり、自尊感情及び下位尺度に変化はなかった。

(4) 学級満足度の違いによる学級満足度と自尊感情の事前・事後比較 (t 検定)

学級満足度高得点群では、学級満足度及び下位尺度で変化が認められず、自尊感情の下位尺度の「他者信頼」が有意に高くなった。学級満足度低得点群では、「学級満足度」及び下位尺度の「非侵害」が有意に高くなり、自尊感情及び下位尺度に変化はなかった。

(4) 着目児童についての事例分析

A男とC男、D女は、学級満足度及び下位尺度の承認と非侵害の得点が高くなった。B女とC男は自尊感情の得点が高まった。B女とC男は、承認と非侵害感を十分に得ることができる状態が推察されたが、A男とD女は、承認や非侵害感を十分には得にくい状況が推察された。

#### 4 考察

学級満足度と自尊感情とは正の相関関係にあり、学級への適応感が高い程、自尊感情(下位尺度では、「他者信頼」、「相互信頼」、「幸福感」)が高い状態であると実証された。

SGEは児童の学級適応と自尊感情の向上に影響を与えたと考えられるが、学級適応の低い児童や着目児童の自尊感情には十分な効果を及ぼさなかった。しかし、教師や級友等の第三者から客観的に見ても、適応を図っている状況に導くことが、自尊感情の向上につながる可能性が示唆された。

学級満足度と自尊感情との相関関係に性差がみられたが、学級満足度と自尊感情とに性差は認められず、何が今回の結果に影響したのか検証が必要である。

自尊感情向上には、児童一人ひとりのアセスメントにもとづいた個人への働きかけや、家庭や地域での受け皿の整備が望まれ、そのための研究推進が切望される。